

小学部 生活単元学習 学習指導案

日 時 平成20年9月24日2, 3校時
場 所 小学部 プレイルーム
授業者 (T1) (T2)
(T3)

1 単元名 「おおきなかぶ」のえほんをつくろう

2 目 標

- (1) 絵本のできあがりを楽しみにして、自分から活動を進めたり、自分からやってみようと手を伸ばしたりすることができる。
- (2) パルプ、色砂、絵の具などの様々な素材を楽しむことができる。

3 児童と単元(題材)

(1) 児童について

男子3名、女子1名、計4名の学級である。身の回りのことをほぼ一人でできる児童から介助が必要な児童までいる。また、簡単なやりとりができる児童から自分の要求を表す言葉を発声やジェスチャーで伝える児童まで実態は様々である。人とのかかわりの面では、友達の真似をして楽しんだり、自分のやりたいことを相手に主張したりする児童の様子が見られるようになってきた。どの児童も友達とのやりとりをする場面が増えてきている。

製作活動では、切る、張る、塗るなどの作業を自分で行う児童、操作に介助の必要な児童がいるものの、活動内容や手順を写真や手本を示すことで、比較的短い工程の製作に大まかな見通しをもって取り組めるようになってきた。昨年度は自分達でおもちゃを作り、出来上がったもので遊ぶという経験をする事ができた。前単元「さらさらばるぶであそぼう」では、ちぎり方からすき方、アイロン掛けに至るまでの工程を各自がそれぞれ行い、パルプ素材を作る活動を体験した。そこでは、自分から手を動かして感触を楽しみながらコップで水をすくい網に注ぐ児童、ミキサーやローラー、アイロンなどの道具の操作に興味をもって取り組む児童の姿が見られた。どの児童も細かい確認が必要だが道具や材料を見れば何をするのが分かり自分から取り組もうとするようになってきた。

★ 児童のニーズについて

自分のやっている活動が分かり、やり方の見通しをもって繰り返し取り組む。興味のもてる道具の使用を経験する。様々な素材の感触を味わう。自分から手を動かして操作し、「こっちをやりたい」と発声やジェスチャーで伝える。

- ・友達や周囲の人へ関心をもち、やりとりをする場面が以前より多く見られるようになってきた。
- ・切る、張る、塗る、パルプ素材を作るという経験をし、作り方を覚えて自分から取り組む様子が見られた。
- ・物語「おおきなかぶ」の場面を演じて楽しみ、読み聞かせをしたいという気持ちをもつようになってきた。

本単元を導くに至った実態やニーズ

(2) 単元について

- ・これまでの学習経験から、自分達で読み聞かせをし合うことを期待して製作できる単元である。
- ・活動の流れが分かり、自分から作り進めていく姿を期待できる単元である。
- ・様々な素材を使い製作することで、絵本がカラフルで質感のあるものになっていくのを見たり、触れたりして楽しむことのできる単元である。

本単元の特徴、良さ、目標達成のための効果

本単元は「おおきなかぶ」の大型絵本を作る活動を中心に構成する。それぞれが自分の製作活

動を十分行った後で、皆の製作した物を持ち寄って大きなかぶや葉、登場人物を絵本のページに張り付けることとする。張り付ける素材が違って活動の流れを同じくすることで、自分から作り進めていく姿を引き出すことができると考える。自分から製作に取り組み称賛を受けて、うれしい気持ちを味わうことのできる単元である。絵本の製作が進むにつれ、かぶや葉、登場人物の張り付けられたページが増えていき、出来上がりを楽しみにして作る姿が期待できる。

大型絵本は、みんなと一緒に場面を演じたり、台詞を言って読み聞かせをしたりすることができる。またサイズが大きいので、どの児童にも見やすく、「読んでみたい」という気持ちを引き出すことができると考える。様々な素材を使って製作することで、素材のもつ質感のあるページに変化していく様を見て楽しむ姿が期待できる。

学びが得られるようにするために中心となる支援

(3) 支援について

- ・絵本を製作する目的が分かり、製作活動への期待感がもてるように、毎時間導入で大型絵本の読み聞かせを行う。
- ・学習活動の大まかな流れが分かり、自分から繰り返し取り組むことができるように、単元の始めの方で手本を示し、材料や道具、作り型を写真で示した手順表を提示する。流れが分かりスムーズに製作できるようになったら、手本や手順表をなくしていく。

完成した絵本で読み聞かせをするという目的が分かり、本時の活動への期待感をもつことができるように、毎時間導入で大型絵本の読み聞かせを行い、「よいしょ、こらしょ、どっこいしょ」と声を合わせる場面を設定する。

張り付ける活動中もせりふで呼びかける等して気持ちを盛り上げたい。その楽しさを動機付けとすることで、絵本の製作活動に向かう意欲を引き出していきたい。

みんなと一緒に作るということを意識付けできるように、授業の始めに、本時に製作する場面のページを児童と一緒に展示場所から運んでくるという活動をする。

授業で製作するページはどの部分に素材を張るのが分かるように、絵本には特徴的な台詞やかぶの葉を描き、張る箇所だけに無地の台紙を取り付けておく。

次々に絵本が出来上がっていくことを実感できるように、表紙の製作には4時間費やすが、それ以降の場面の製作は2時間1コマの授業で作り上げていけるように活動量に配慮している。

4 指導計画（総時数 22時間）

小 単 元	主 な 活 動	時数
おおきなかぶのえほんをみよう	○「おおきなかぶ」の絵本の読み聞かせを楽しむ ○かぶの模型を全員で引っ張り、せりふを言って楽しむ	2
かぶがでてくるもけいをつくろう	○かぶ、葉をパルプ素材で製作 ○模型の製作（パルプ素材の張り付け、仕掛け組み立て）	4
じぶんたちのえほんをつくろう	○表紙（かぶをパルプ素材で製作）	4
	○種をまく場面（おじいさん、土を張り絵、色砂で製作）	2
	○かぶの葉が生える場面（葉をパルプ素材で製作）	2
	○かぶが土から少し出た場面 （土、かぶ、葉を張り絵、ステンシルで製作）	2
	○かぶを一人で引く場面（かぶをパルプ素材で製作）	2
	○かぶを全員で引く場面（かぶをパルプ素材で製作）	2
	かぶが土から出てくる仕掛け付きのページ	本時
	○全員が並んでいる場面と裏表紙 ・「できました表」を絵本の裏側に張り付ける ・出来上がった絵本で読み聞かせを楽しむ ・完成を祝って乾杯	2

5 本時の計画（総時数19, 20/22）

(1) 全体の目標

・絵本の完成を期待して、自分から作り進めていくことができる。

(2) 個別の目標と＜期待する学びの姿＞

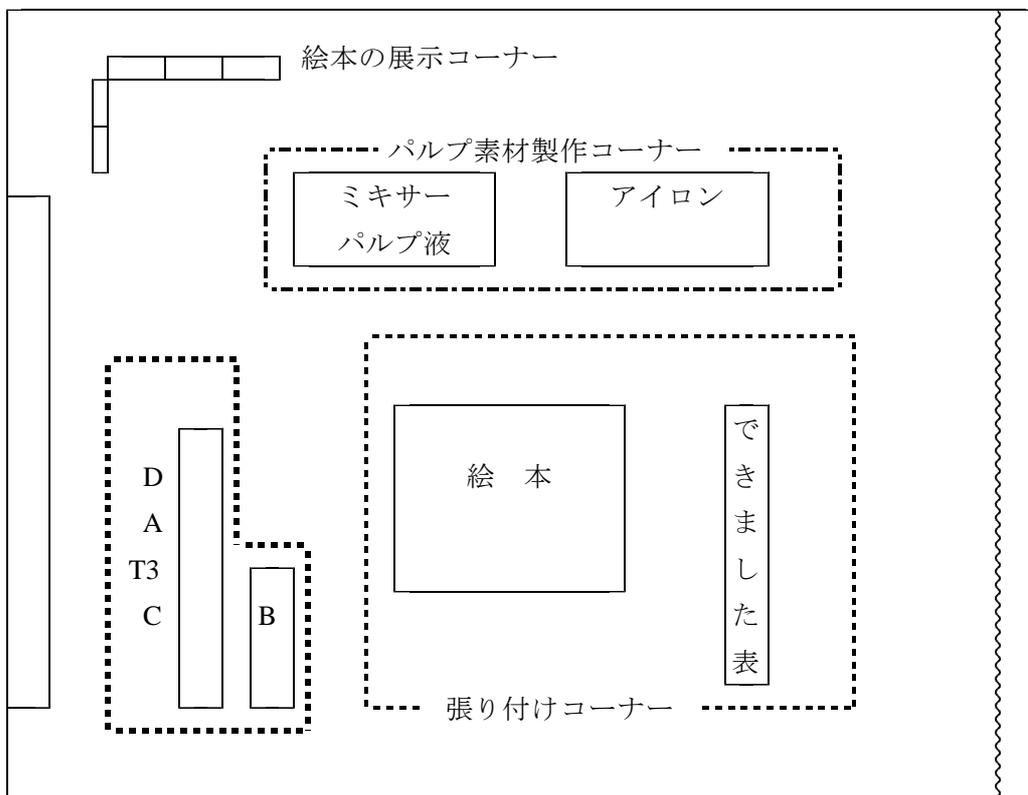
氏名	児童の様子	目標＜期待する学びの姿＞	目標にかかわる手立て
A	興味のあることには納得がいくまで取り組むが、単調な活動では注意がそれることがある。動作や素材の様子を「ぺたぺた」などの言葉を遣い、楽しい雰囲気や伝えるとおもしろさを感じて取り組み始めることがある。	・牛乳パックの芯のちぎりから絵本にパルプ素材を張り付けるまでの活動を教師の励ましや促しを受けて作り進めていくことができる。＜注意がそれでも再度手元を見て取り組み、次の活動にスムーズに移る姿＞	・特に意識のそれやすい牛乳パックの芯ちぎりの活動では、ちぎる量を示す。ちぎる場所は注意を向けて取り組めるような刺激の少ない場にする。T1 もそばで一緒にちぎり「ぼい、ぼい」とちぎる様子を擬態語で伝える。ちぎりやすい柔らかさの芯を準備する。
B	特定の教師と二人きりの時には「～が欲しい」という意思を声を出して伝えるが、注目される場面では寡黙になる。休み時間などリラックスしている時にも発声は頻繁ではない。	・教師に対して、パルプ素材を握る、手にかける、押し付けるなどを要求して、時間いっぱい取り組むことができる。＜～をしてほしいという気持ちを発声や身振りで何度も教師に伝える姿＞	・T2 は、求めに応じて聞き返して確認する。また、本児が取り組んでいない活動をやってみせて誘う。 ・T2 が他の児童へ対応しているときは T1,T3 が本児へ対応する。

(3) 学習過程

時間(分)	学習活動	支援上の留意点	準備物
9:50	1 あいさつをする。	・T1 に視線を向け正しい姿勢で着座し視線を T1 に向けることができるように、座り方の手本を示す。	学習予定表
9:51	2 本時の活動を知る。	・児童が張り付けた素材の感触を味わえるように、教師が絵本に触ってみせて児童にも促す。	大型絵本
(9)	(1) 前時に製作したページを見る。	・「よいしょ、こらしょ、どっこいしょ」と声を合わせる場面では、製作への気持ちを高めることができるように、はっきりした口調で大きくかぶを引く動作を演示して話す。	材料かご
	(2) これまで出来上がった絵本のお話を聞く。	・みんなで運ぶことが分かるように、T1 が絵本を持って「よいしょ」と伝え、展示の方を指し示す。	ミキサー
	(3) 展示場所に運び、替わりに本時に製作する絵本ページを持ってくる。	・製作へ気持ちを切り替えることができるように、合言葉をきっかけに開始する。	ローラー
10:00	3 製作する。	・T1 は主に児童 A と児童 D に、T2 は児童 B、T3 は児童 C を支援する。児童がスムーズに作り進めていけるように、T1 はすき枠やトレーなどを定位置に戻したり、アイロンの電源の管理を行う。	アイロンなどパルプ製作道具一式
(50)	① 牛乳パック芯のちぎり	・T3 は児童と一緒に牛乳パックの芯をちぎる。	色紙ケース
	② 色の決定	・児童 B がパルプ素材の感触を十分楽しめるように牛乳パックの芯のちぎりの量を少なくし、その後	
	③ ミキサーがけ		
	④ ローラーがけ		

	⑤ アイロンがけ	の活動のための時間を確保する。	
10:45 (10)	6 児童 B の作ったパルプ素材をみんながかぶに張り付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に張り付けたかぶの感触を味わえるように直接児童の手で触れる機会をもつ。 ・児童がじっくり絵本に触れるように、それぞれの児童の手の届く場所に移動させる。 	花丸シール
10:55 (9)	7 本時の学習を振り返る。 (1) 絵本の出来栄えを見る。 (2) できました表学習予定表を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・どの児童が何枚のパルプ素材を製作したかが分かるように、「できました表」で「できましたシール」を数える場面を設定する。 ・十分活動できたことを互いに称賛し合えるように、学習予定表に花丸シールを張る活動を設定する。 ・合い言葉で終わる。 	
11:04 (1)	8 あいさつをする。		

(4) 配置図 小学部 プレイルーム



(5) 評価

氏名	目 標 〈単元を通して期待する学び〜目標と関連するもの〉	目標にかかわる手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックの芯のちぎりから絵本にパルプ素材を張り付けるまでの活動を教師の励ましや促しを受けて作り進めていくことができる。 〈注意がそれでも再度手元を見て取り組み、次の活動にスムーズに移る姿〉 	<ul style="list-style-type: none"> 特に意識のそれやすい牛乳パックの芯ちぎりの活動では、ちぎる量を示す。ちぎる場所は注意を向けて取り組めるような刺激の少ない場にする。T1もそばで一緒にちぎり「ぼい、ぼい」とちぎる様子を擬態語で伝える。ちぎりやすい柔らかさの芯を準備する。
〈評価〉	目 標 学びの姿	
B	<ul style="list-style-type: none"> 教師に対して、パルプ素材を握る、手にかける、押し付けるなどを要求して、時間いっぱい取り組むことができる。 〈〜をしてほしいという気持ちを発声や身振りで何度も教師に伝える姿〉 	<ul style="list-style-type: none"> T2は、求めに応じて聞き返して確認する。また、本児が取り組んでいない活動をやってみせて誘う。 T2が他の児童へ対応しているときはT1,T3が本児へ対応する。
〈評価〉	目 標 学びの姿	

評価の凡例

目標

- ◎：達成された
- ：達成されつつある
- △：達成されていない／目標が妥当であるか見直しが必要である

手立て

- ◎：目標達成のために適切であった／効果があった
- ：手立ての継続する必要がある／手立てを部分的に修正する必要がある
- △：手立てが適切でない

学びの姿

- ◎：期待する学びの姿が見られた
- ：期待する学びの姿が見られつつある
- △：期待する学びの姿が見られない